

2000年度(平成12年度)事業並びに収支決算報告

2000年度は、通常事業のほかに協議会設立10周年を記念してのシンポジウム開催や出版物刊行などの特別事業を企画して実施しました。

また、会員企業や文化庁をはじめ公的機関から文化事業の企画・運営に関するコーディネート業務の受託要請が寄せられ、これらにも積極的に対応して推進しました。

I 事業報告

1. 啓発・普及事業 (16,801千円)

1.1 セミナー、シンポジウム (15,288千円)

(1) 当年度は、会員を対象とする次のセミナーを実施しました。

開催日	会場	テーマ・内容	参加者
2000年 6月20日 (火)	アサヒビール 本社	メセナ入門「リレーレポート・最新メセナ事情」(各社の活動事例紹介) ①「美術を中心とした文化事業」 安田火災・広報部文化事業室長 横尾浩輝氏 ②「NEC アーリーミュージックシリーズ」 NEC 社会貢献部セキキサポート 斎藤公治氏 ③「JT とクラシック音楽」 日本たばこ産業企業文化部次長 佐向寛明氏 ④「インターネット時代における企業と文化」 日本アイ・ビー・エム社会貢献課長 中島和枝氏 ⑤「アーティストの向こうに見える未来」 アサヒビール環境文化推進部副課長 河村めぐみ氏	会員 約50名
2000年 7月27日 (木)	大林組 東京本社	フィールド見学編 「コーポレートアート -大林組東京本社の場合-」 美術評論家・南條史生氏を講師に迎え、現代美術とオフィスの融合をめざした同社ビルを見学	会員 約50名

(2) 文化庁の要請を受けて、次の国際セミナーの企画・運営業務を担当し、実施しました。

タイトル	国際文化セミナー 「アートサポートの創意・工夫」 ー海外の事例から～新たな芸術文化の基盤整備に向けてー
開催日	2001年3月22日(木)・23日(金)
会場	東京港区・ホテル フロラシオン青山
主催	文化庁
企画・制作	(社)企業メセナ協議会
参加者	合計 280名
内容	<p>第1日</p> <p>主催者挨拶 佐々木正峰 文化庁長官</p> <p>セッション1 「What's wrong with Art Museums? ーニューミュージアムの経験からー」</p> <p>○マーシャ・タッカー氏 (元ニューミュージアム館長) ○福のり子氏 (イデパソデント・キュレーター)</p> <p>セッション2 「個人の芸術家に交付する助成金 ーその意味と効果をどう測る？」</p> <p>○チャールズ・バーグマン氏 (ポロック・クラズナー財団会長) ○塩谷陽子氏 (芸術文化事業研究者)</p> <p>レセプション</p> <p>第2日</p> <p>セッション3 「ヨーロッパにおける2つの共同メセナと、 日本の文化支援の現況」</p> <p>○ヴィルジニー・セゲールス氏 (仏 ADMICAL 事務局長) ○コリン・トゥイーディー氏 (英 Arts&Business 事務局長) ○伊藤裕夫氏 (静岡文化芸術大学教授)</p> <p>セッション4 「韓国の伝統文化の保存と刷新 ーパフォーミング・アーツを中心に」</p> <p>○金 文煥氏 (ソウル大学教授) ○根本長兵衛・企業メセナ協議会専務理事</p> <p>セッション5 総合討議</p> <p>○マーシャ・タッカー氏 ○チャールズ・バーグマン氏 ○コリン・トゥイーディー氏 ○ヴィルジニー・セゲールス氏 ○金 文煥氏 ○福のり子氏 ○塩谷陽子氏 ○遠藤 啓氏 (文化庁文化部長)</p> <p>閉会挨拶 根本長兵衛専務理事</p>

(3) なお、前記の国際セミナーに連動し、次の講座を実施しました。

	国際アートマネジメント講座 1	国際アートマネジメント講座 2
開催日	2001年3月25日(日)	2001年3月26日(月)
会場	京都国立近代美術館	京都・池坊短期大学
主催	企業メセナ協議会、京都国立近代美術館	企業メセナ協議会
共催	文化庁	文化庁
協賛	アサヒビール、トヨタ自動車、資生堂	アサヒビール、トヨタ自動車、資生堂
協力・後援	堂本印象記念近代美術振興財団ほか	関西日仏学館
参加者	50名	50名
内容	①「これからの美術館。What's wrong with Art Museums?」 ○マーシャ・タッカー氏 ②「芸術家への助成制度を考える。 - 財団助成への申請の方法」 ○チャールズ・バーグマン氏 □コーディネーター 福のり子氏	「フランス最新メセナ事情」 ○ヴィルジニー・セゲールス氏 ○河島伸子氏(同志社大学専任講師)

1.2 全国メセナ組織との交流 (459千円)

全国メセナネットワーク(加盟16団体)の第2回全体会議が2000年9月29日(金)・30日(土)、山梨県甲府市で、ネットワーク加盟団体関係者、各地の自治体関係者および地元市民など合計70名の出席のもと、次の内容で開催されました。

なお、当協議会からは会員企業および事務局から5名が出席しました。

9月29日 (金)	全体会議 ○開会(挨拶:山本栄彦・甲府市長ほか) ○特別講演「地域、人、文化 -ほんとの出会いを求めて」 鳥取・(株)今井書店グループ社長 永井伸和氏 分科会 ①「企業とメセナ」 ②「芸術支援における行政と民間の役割」 ○情報交流会 (挨拶:天野 建・山梨県知事)
9月30日 (土)	総会 全体会議 ○分科会報告 ○特別講演「地域文化の振興」 文化庁芸術文化課課長補佐 奈良 哲氏 ○特別報告「最近のメセナの動き」 企業メセナ協議会 根本長兵衛専務理事 ○閉会

2. 情報集配・仲介事業 (25,733 千円)

2.1 情報誌の発行(8,778 千円)

ニューズレター『メセナ note』7号～12号を次の内容で発行しました。

号	解説・論説	トップインタビュー	いまどきのアート	レポートほか
7	『芸術文化とグローバリゼーション』 (ジャック・リゴー氏の10周年記念講演から)	(新会長紹介) 樋口廣太郎会長	神戸・CAP HOUSE (執筆:アートプログラム・ディレクター 原久子氏)	フォーラム「アーツを支援するためにアーツ・ムードーズ(格付け機関)は有効か」 (執筆:曾田修司氏)
8	『パトロンからパートナーへ』 (執筆:事務局/熊倉)	(新会員) 京都橘女子大学 大南正瑛学長	(特別記事) メセナ大賞 新トロフィー・デザインコンペの報告①	フォーラム『日本のオーケストラ運営の現状と地域や支援企業との新しい関係』 (執筆:日本オーケストラ連盟事務局長/岡山尚幹氏)
9	『地球新時代の顧客満足とは/マーケティングの視点からメセナを語る』(執筆・ジャパンライフデザインシステムズ代表取締役・谷口正和氏)	(新理事) 大阪ガス(株) 領木新一郎会長	『弘前劇場—地域における普遍性の追求』 (執筆:演劇ジャーナリスト・堤 広志氏)	(特別記事) メセナ大賞 新トロフィー・デザインコンペの報告②
10	『企業メセナの10年深化した支援活動と市民の眼』(編集部)	(特別記事) 『メセナ白書 2000から』	(特別記事) 『メセナ大賞 2000 受賞事業紹介』	セミナー報告 『最新メセナ事情』 (2000年6月20日開催)
11	『メセナが培う<市民の誇り>』 カール・ヴァン・ウルフワルプ氏 (10周年記念国際シンポジウム基調講演から)	(メセナ大賞受賞) 第一生命保険(相) 森田富治郎社長	『アートと社会の<わりと普通>の共生』 (執筆:東京オペラシティ・アートキャリール 片岡真美氏)	フォーラム 『地方メセナの意欲と課題』 (執筆:日本経済新聞社文化記者 兼吉毅氏)
12	『文化のアトラクティブネス—なぜ企業はメセナをするのか』 (執筆:朝日新聞社論説委員 川名紀美氏)	(新会員) 山口市 佐内正治市長	『アカシアの道—映画産業とNPO法人が映画製作』 (執筆:ユースペース 支配人/北條誠人氏)	10周年記念 シンポジウム報告 『市民の時代と芸術文化—これからのメセナがめざすもの』 (編集部)

※2000年度発行部数(1号あたり)5000部

2.2 コンピューターシステムの活用 (2,378 千円)

1999 年秋から事務局の設備を充実したことにより、当年度の業務の推進に次のような効果がもたらされました。

- (1) 『メセナ大賞 2000』のインターネットでの応募受け付けによる事務処理の合理化。
- (2) 『メセナ白書 2000』のデータ集計処理の効率化。
- (3) ホームページの充実がはかれ、ヒット件数が増加。
(例:3月の月間ヒット件数 2000年/6,793件、2001年/16,070件)
- (4) 会員関係者をはじめ外部との連絡業務の効率化。
- (5) 予算などの管理業務の省力化。

2.3 コーディネート事業 (収入:12,286 千円、支出:8,469 千円)

本年度は、会員企業のほかに公共団体も含め、次のコーディネート事業を受託しました。

企業・団体名	業 務 内 容
トヨタ自動車	トヨタアートマネジメント講座 (全国7カ所で開催) 企画・運営
山口市	山口情報芸術センター・イベント企画
国際交流基金	アーティスト・イン・レジデンス事業現況調査

3. 調査研究事業 (17,440 千円)

3.1 『メセナ白書 2000』の刊行 (11,688 千円)

本年度は、調査部会の協力のもとに「企業メセナ実態調査」のほかに特集記事として一般市民のメセナに対する意識調査を実施し、これらの結果をもとに『メセナ白書 2000』を編集、10月26日(金)に刊行しました。

企業調査では長引く景気低迷のもとで1999年度の企業メセナがほぼ前年度と同程度に実施されたこと、また、市民調査では総じて企業のメセナ活動に対する好意的意見が多かったことが判明しました。

また、これらの調査結果についての記者発表会を10月23日(月)、東京有楽町の日本外国特派員協会において約30名の報道関係者を招いて実施しました。

[2000年度調査部会]

岡部修二氏(トヨタ自動車) ※部会長

市川哲夫氏(第一生命)

河辺尚之氏(富士ゼロックス)

土田芳孝氏(朝日新聞社)

中島康夫氏(電通)

3.2 研究活動 (191 千円)

当年度は、研究部会の協力のもとに、10周年を機会に策定する「協議会提言」の内容を検討するため、次の方々を招き、研究部会を実施しました。

- 2000.3/7 朝日新聞社論説委員 川名紀美氏
- // 5/16 芸団協理事 松本伸二氏、事務局長 大和 滋氏
- // 7/25 ジャパンライフデザインシステム代表 谷口正和氏
- // 9/22 APA(芸術振興協会) 堤 康彦氏
- // 10/19 P3 art and environment 芹沢高志氏、
REAL TOKYO 編集長 小崎哲也氏
- 2001. 1/17 セゾン文化財団理事・事務局長 片山正夫氏

[2000 年度研究部会]

- 加藤種男氏(アサヒビール) ※部会長
- 小野みゆき氏(日立製作所) 尾崎宣之氏 (ワコール)
- 島田京子氏(日産自動車) 佐藤正明氏 (ソニー)
- 森 光平氏 (資生堂) 横尾浩輝氏 (安田火災)

4. 顕彰事業 (15,744 千円)

4.1 メセナ大賞 (11,003 千円)

- (1)「メセナ大賞 2000」には 79 社・107 件の応募があり、大賞部会の協力を得て審査委員会にはかり、次の企業及び団体の授賞を決定しました。
なお、本賞の贈呈式は 12 月 8 日 (木)、東京・青山のスパイラルホールにおいて約 200 名の出席者のもとに実施しました。

- メセナ大賞 第一生命保険相互会社
「VOCA 展の開催」
- 育成賞 (財)アフィニス文化財団
「日本のプロオーケストラへの支援活動」
- 新人育成賞 沖縄電力株式会社
「おきでんシュガーホール新人演奏会オーディションの実施」
- 創造賞 キヤノン株式会社
「キヤノン写真新世紀の実施」
- 地域賞 株式会社神戸酒心館
「神戸酒心館ホールの運営」
- 組織支援賞 三洋電気株式会社
「大阪シンフォニカーへの支援活動」
- 企業理念賞 日産自動車株式会社
「子どもの想像力育成」に投資するメセナ活動
- 振興賞 日本電気株式会社
「NEC EARLY MUSIC SERIES の実施」

- (2) 当年度は、贈呈するトロフィーのリニューアル期(3年ごと)にあたるため、セゾン現代美術館の協力を得て、若手造形作家によるデザインコンペを実施し、大賞部会で選考を行い、鷺見和紀郎氏の作品の採用を決定しました。

[2000～2003 年度審査委員]

池田逸子氏(音楽評論家)

河合隼雄氏(臨床心理学者、総合研究大学院大学名誉教授)

中沢けい氏(作家) ピーター・バラカン氏(ブロードキャスター)

平田オリザ氏(劇作家・演出家) 福田美蘭氏(画家)

本江邦夫氏(多摩美術大学教授) 福原義春理事長

※岩城宏之氏(指揮者)は辞任。2001年度からは富永壮彦氏(音楽評論家)が就任。

[2000 年度大賞部会]

加藤恒夫氏(大日本印刷)※部会長 石綿祐子氏(社会工学研究所)

大森一正氏(日本生命) 西田克彦氏(日本電気)

西野正浩氏(資生堂) 大和 滋氏(芸団協)

横尾 優氏(鹿島建設)

5. 国際交流事業(1,389 千円)

5.1 各国のメセナ組織との交流

- (1) 日常の通信による情報交流のほかに、次の国際会議に参加しました。

□「メセナ国際ネットワーク会議」

各国のメセナ組織の事務局関係者が集まり、情報交換を行う定例の国際会議。今回は、各国組織の事業や財源の比較、理事会の機能と運営状況、および今後のネットワーク会議の運営等について話し合いが行われました。

○開催時期 2000年10月11日(水)～13日(金)

○開催地 アイルランド共和国・ダブリン

○当協議会参加者 事務局・熊倉純子

- (2) 2001年3月下旬に開催された文化庁主催の国際文化セミナー(既述)に仏・ADMICAL 事務局長のヴィルジニー・セゲールス氏、英 Arts&Business 事務局長のコリン・トゥイディー氏を招聘した機会に、情報交換を行いました。

また、上記セミナーでの事前打合せのために根本専務理事と事務局・角山が韓国を訪問し、KOBICA(韓国メセナ協議会)の李景培事務局長と懇談しました。

5.2 その他の国際交流

台湾の(財)国家文化芸術基金会主催による国際シンポジウムが2000年10月30日(月)～11月2日(木)に台北市で開かれ、根本専務理事が招待を受けて出席し、日本のメセナの状況について講演を行いました。

6. 助成事業(認定業務 10,518 千円)

2000年度に当協議会の助成認定制度を利用して行われた芸術活動への寄付は879件、53,305万円で、前年度(752件、51,566万円)を上回りましたが、1件あたり寄付金額は過去最低の60万円で小口化が顕著になりました。

年 度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
申請件数	103	92	125	121	121	172	176
認定件数	83	80	109	115	111	155	165
寄付件数	159	430	661	769	697	752	879
金額(万円)	19,705	31,102	55,590	86,555	44,281	51,566	53,305
1件当たり(万円)	123	72	84	113	64	68	60

7. 10周年記念事業（13,467千円）

協議会設立10周年を記念して次の特別事業を実施しました。

7.1 国際シンポジウムの開催（7,390千円）

開催日	2000年11月20日（月）
会場	東京港区・草月ホール
タイトル	『市民の時代と芸術文化』－これからのメセナがめざすもの－
主催	企業メセナ協議会
共催	朝日新聞社
特別協賛	アサヒビール・NEC・鹿島建設・関西電力・京セラ・サントリー 資生堂・ソニー・第一生命・大日本印刷・竹中工務店・東京電力 トヨタ自動車・日本生命・松下電器・安田火災・ワコール
参加者	合計 420名 （内訳：一般194名、会員ほか招待198名・その他28名）
プログラム	1. 基調講演 カレル・ヴァン・ウォルフレン氏（ジャーナリスト） 2. パネルディスカッション パネリスト：カレル・ヴァン・ウォルフレン氏 鴻上尚史氏（劇作家・演出家） 河島伸子氏（同志社大学専任講師） 根本長兵衛・協議会専務理事 コーディネーター：筑紫哲也氏（ニュースキャスター）
備考	シンポジウムの内容は、朝日新聞12月8日付朝刊にて紹介された。

7.2 記念出版（6,076千円）

刊行の ねらい	1.協議会設立10年を機会に、企業メセナの基本的知識から現在までの動向を概観するとともに、21世紀の方向を展望する。 2.企業とのパートナーシップを望む芸術家や行政関係者に企業メセナについての理解を深めてもらう。 3.新たにメセナに取り組もうとする企業人、大学などでメセナについて研究しようとする学生などに情報を提供する。
書名	「なぜ、企業はメセナをするのか？ －企業とパートナーを組みたいあなたへ－」
制作／発行	企業メセナ協議会
発売	(株)トランスアート社
形態	A5版、212ページ

発行日	2000年12月17日
発行部数	初版500部（目標2000部）※オンデマンド方式にて随時増刷
定価	2000円（税別）
内容	<p>第1章 入門編 -企業メセナQ&A-</p> <p>第2章 企業メセナの実際</p> <p>□座談会-企業が日本の文化基盤をつくってきた</p> <p>○市村作知雄氏（東京国際舞台芸術フェスティバル・ディレクター）</p> <p>○小沼純一氏（音楽文化研究者）</p> <p>○村田 真（美術ジャーナリスト）</p> <p>○司会：伊藤裕夫氏（静岡文化芸術大学教授）</p> <p>○谷口正和氏（ジャパンライフデザインシステムズ代表取締役）</p> <p>□各社の活動事例</p> <p>第3章 寄稿 -3つの異なる視点から</p> <p>○伊藤裕夫氏（静岡文化芸術大学教授）</p> <p>○塩谷陽子氏（芸術文化事業研究者）</p> <p>○吉本光宏氏（ニッセイ基礎研究所主任研究員）</p> <p>第4章 対談 -芸術文化と企業、21世紀の日本社会とメセナ</p> <p>○福原理事長×根本長兵衛専務理事</p>

7.3 関連事業など

- (1) 2000年7月1日（土）、（財）かながわ学術研究交流財団の主催により、湘南国際村の同財団で開催された「K-FACE フォーラム 21世紀の文化とグローバル化」に当協議会は10周年記念関連事業として企画・制作に協力、根本長兵衛専務理事がコーディネーターとして出演しました。
- (2) 10周年記念を表現したロゴマークを作成し、会員企業のメセナ活動の告知物等を通じてPRをはかりました。

8. その他の活動

8.1 会議関係

○理事会（第31回～32回）	3回	○通常総会（第21回、第22回）	2回
○第4回理事・評議員合同会議	1回	○幹事会	6回
○調査部会	5回	○大賞部会	8回
○研究部会	8回	○大賞審査会	1回
○助成選考委員会	6回		

8.2 講演（講話）会

実施日	2000年6月12日(月)	2001年3月28日(水)
会場	経団連会館	経団連会館
テーマ	「これからの企業経営とメセナ」	「協議会の10年、そしてこれから」
講師	樋口廣太郎会長	根本長兵衛専務理事
参加者	第21回通常総会出席者 約70名	第22回通常総会出席者 約70名

8.3 主な講演・執筆・出演依頼等への協力

区分	依頼時期	依頼元	依頼内容
情報提供	4/12	公明党本部	企業メセナに関する状況説明
出席	6/19	文部省	「文部時報」座談会
事業協力	6/28	文化庁	アーティスト・イン・レジデンス事業への協力
講師派遣	8/1	(財)地域創造	「アウト・リーチの役割について」
講師派遣	8/4	(財)地域創造	「フランスのヌヴェ・シク その起源と発展」
情報提供	8/3	公明党本部	企業メセナに関する状況説明
講義	8/25	(財)地域創造	アートアプローチセミナー
講師派遣	10/5	文化庁	文化庁キュレーター中級研修
講師派遣	1/19	市町村職員中央研修所	地域社会における企業メセナ
出演	12/23	千葉県教育委員会	千葉県芸術振興会議パネルディスカッション
インタビュー	1/24	国際交流基金	季刊『国際交流』「現代アートと企業メセナ」
連載執筆	4月～3月	文化庁	『文化庁月報』「これからのアートマネジメント」

8.4 会員異動状況

会員種別	平成12年4月1日	平成13年3月末日	増減
正会員	167社	169社	+2社
準会員	42団体	41団体	-1団体
合計	209社・団体	210社・団体	+1社・団体

II 収支決算報告

1. 一般会計

収入の部では、会費収入は予算を52万円下回る1億1,654万円でしたが、文化庁主催国際セミナーの業務受託などにより事業収入が見込みより増え、当期の収入合計は予算を2,680万円上回る1億5,360万円になりました。

一方、支出の部では、事業費は上記の国際セミナーなど当初計画外の事業を実施した関係で、予算を1,345万円上回りました。しかし、管理費は予算を96万円下回り、また、10周年記念事業費への繰入金が90万円でおさまったことにより、当期の支出合計では予算を1017万円上回る13,542万円になりました。この結果、当期収支差額は1,818万7,425円で、これに前期繰越収支差額を加えた次期繰越収支差額は3,261万8,933円になりました。

2. 特別会計①（10周年記念事業）

会員からの協賛金や公的機関からの助成金がほぼ計画どおり確保でき、一方、事業費もほぼ見込みどおりの1,346万7,261円の実績で、一般会計からの繰入金は90万円でおさまりました。

3. 特別会計②（助成寄付金）

本年度の助成寄付金は、収支ともに昨年度の実績を上回る、総額5億3,305万1,000円でした。

33